

## ファンド概況

基準価額	9,777円	純資産総額	2,622百万円
設定日	2013年4月15日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年2月25日		

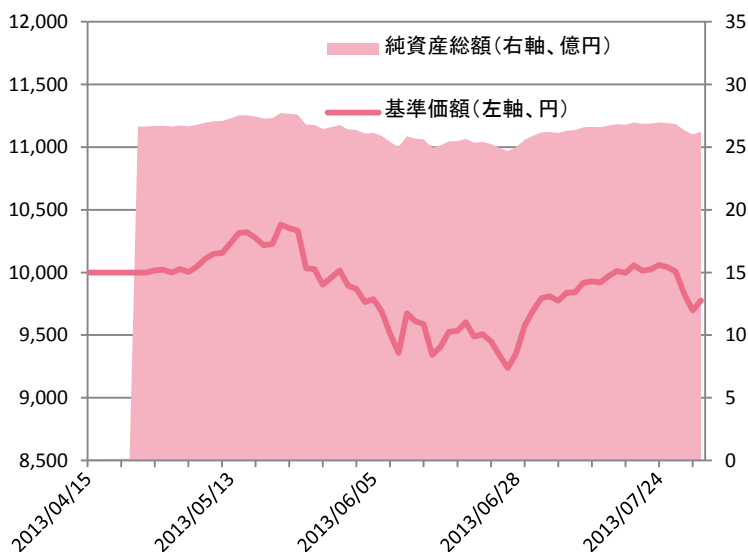
## 期間別騰落率(%)

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
4.54	-2.21	-	-	-	-2.23

## 分配金(円)

1期 ('14/2/25)	2期	3期	累計
-	-	-	-

## 基準価額と純資産総額の推移



## 運用コメント

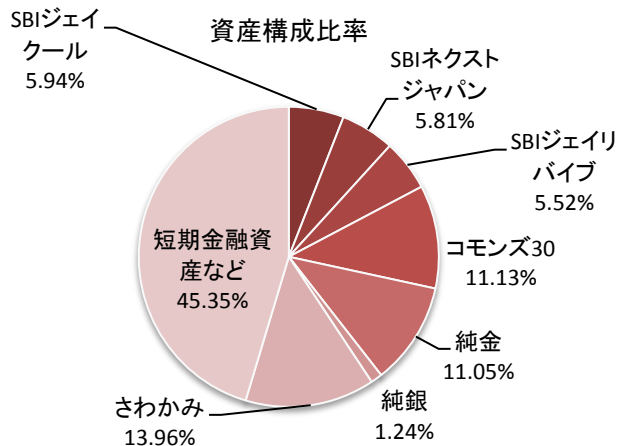
7月の日経平均は6月に引き続き0.07%下落しました。一時、15,000円直前まで買われる場面もありましたが、急速な円高と中国景気の減速懸念により、13,000円台後半まで売られました。結果的には、6月の安値(12,415円)を切らずに終わりました。その主な要因として、日米の景気回復テンポが先月に比べて、やや改善していることが考えられます。米国では4-6月の第2四半期の実質GDPが事前予想を上回る1.7%と発表され、住宅投資や設備投資が堅調な動きになっています。一方、日本でも緩やかながら、雇用の改善と個人消費が生産を押し上げる好循環が確認されています。

7月はNY株式が再び史上最高値を更新する等、新興国から米国への資金回帰が目立ち始めています。米国は、不動産と株高による資産効果で消費が底堅く推移していますので、景気回復が本格化すれば、出口戦略の時期が心配されるというジレンマにあります。この調子でいくと量的緩和縮小の早期実現可能性は高いと予想する人間が増えそうです。そうなると一旦はお金がリスクのある投資先から回帰しますので、一時的に日米株安、円高へ逆戻りすることも考えられます。ただ長期的にはドル高、日米の株高のトレンドは変わらないと考えられるので、日米の株式への絶好の買い場となると考えています。

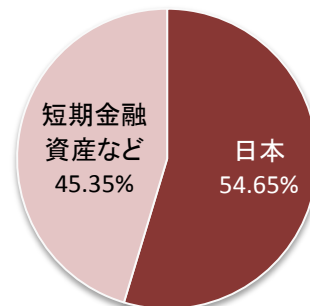
7月のコドモファンドの運用結果に関しましては、組入れファンドの中で最も値上がりした「SBI小型成長株ファンド(クール)」をはじめとした日本の中小型株式に投資するファンドが前月に比べて大幅に値を戻しました。また、日本の優良株式に投資している「さわかみファンド」や「コモンズ30」も値上がりしました。さらに「純金信託」と「純銀信託」もリバウンドした結果、月間の上昇幅は+4.54%となりました。一方、短期的には、為替が円高に振れるリスクが高いと判断し、組入れられているファンドの中で為替の影響を受けやすい「さわかみファンド」、「純金信託」、「純銀信託」を一部、売却しました。

今後の運用に関しましては、引き続き、景気減速感が強まりつつある欧州経済や、影の銀行システムの問題が表面化している中国経済が懸念材料です。また、世界的には金利の動向に目が離せませんが、中国や中東でデモや暴動が多発する中で、徐々に運用資産の質への逃避(比較的 안전한資産へ移すこと)が起きているのではないかと考えています。したがって、当面は、収益の回復が強い日米欧先進国へ投資するファンドへの高位の組入れを継続し、世界経済の動向を見極めて、慎重に判断したいと考えています。ファンド組入れ比率は、当面50~95%程度とし、機動的に対応したいと考えています。

## ポートフォリオの状況



国別投資比率



## コドモファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率

(組入れ銘柄数: 324銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入れ比率	組入れファンド名
1	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	0.833%	さわかみ
2	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	0.659%	さわかみ
3	日東電工	液晶用光学フィルム、医療用テープ等の製造	0.496%	コモンズ30
4	ダイキン工業	空調事業でシェア世界一	0.495%	コモンズ30
5	クボタ	農業機械、エンジン、建設機械等の製造	0.487%	コモンズ30
6	ディスコ	精密加工装置・加工ツールの製造	0.482%	コモンズ30
7	ユニ・チャーム	生理・日用衛生用品等の製造	0.469%	コモンズ30
8	信越化学工業	塩ビとウエハ世界シェア首位の化学メーカー	0.467%	コモンズ30
9	本田技研工業	二輪・四輪・汎用機を製造する世界的メーカー	0.464%	コモンズ30
10	旭化成	化学、繊維、住宅、建材、医薬品等の事業を展開	0.464%	コモンズ30

## 今月の会社紹介

### 【会社名】

フロイント産業

### 【事業内容】

フロイント産業は、主に医薬品製造で使われる「造粒・コーティング装置」のメーカーです。「造粒」とは、原薬化合物と添加剤を所定の比率で混合し所定の粒子形状に加工する工程で、「コーティング」は錠剤の表面に薬剤溶出をコントロールするための皮膜を形成する工程です。どちらも錠剤や顆粒剤製造の非常に重要な工程で、錠剤の口触りを良くしたり、胃酸で溶けないようにするといった役割を持たせながら、1錠1錠同じものを大量に作るには、特殊な技術とノウハウが必要となります。同社は1964年の創業時から錠剤のコーティングに着目し、長年にわたって最先端装置を次々と開発してきました。現在、この分野では日本を含むアジアで首位、世界でも第3位のシェアを有するトップ企業の一角を占めています。(SBIアセットマネジメント)

フロイント産業は「SBIジェイリバイブファンド」に3.34%組入れられています。



## ファンドの特色

### ①「長期投資」

世界経済は大きなサイクルでダイナミックに変化しており、それに伴って、株式や債券、商品、不動産等の資産価格も変動しています。短期的な動きには追従せずに、長期的な視点で世界を俯瞰した運用を行います。

### ②「分散投資」

政治・経済の様々なリスクに対応するために、国や地域、資産そして時間を分散させます。分散投資をより効果的に行うために、国内外の複数のファンドに投資します。

### ③「厳選したファンド」

当ファンドの目的や運用方針を共有できる運用会社を厳選し、その会社が運用するファンドに投資します。また組入れにあたっては、国内外のETF(上場投資信託証券及び上場投資証券)に投資する場合があります。

## ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

**投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。**

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください>

## ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	ありません
運用管理費用 (信託報酬)	年率1.05%(税抜き1.0%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.9±0.25%(概算)
その他費用・ 手数料	信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

## 業務管理部からのお知らせ

残暑厳しい折、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

### 【ご登録内容の変更はございませんか？】

転居等によりご住所、ご連絡先が変更となった場合は、弊社への変更手続きが必要となります。弊社より、**お取引に関する重要な書類や大切なお知らせなどをお送りしております**ので、ご住所等の変更がございましたら、お手数ですが下記の手順にてお手続きをお願い致します。

- ①「登録事項変更届」の用紙を弊社ホームページまたはお電話にてご請求ください。
- ②「登録事項変更届」にご記入のうえ、ご返送ください。  
※弊社ご登録印であることをご確認ください。  
※新住所が記載された「ご本人確認書類」(運転免許証の写し・住民票等)をご同封ください。
- ③後日、弊社より「登録内容変更の控え」を発送いたしますので、内容をご確認ください。

なお、メールアドレスのご変更は、ホームページまたはお電話でもお手続きを承ります。

<ホームページの場合>

「各種お手続き」→「メールアドレス・レポート受取方法変更」フォームよりご連絡ください。

<お電話の場合>

「メールアドレスが変更となった」旨をお申し出ください。

ご不明な点等ございましたら、弊社業務管理部までお問い合わせください。

### 【毎月つみたてスケジュール】

引落開始月	新規申込・引落口座 変更締切日	引落金額変更・ 中止締切日	引落日	約定日
平成25年9月	受付終了	8月23日(金)	9月5日(木)	9月18日(水)
平成25年10月	9月3日(火)	9月24日(火)	10月7日(月)	10月18日(金)

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止については、お電話でも承っております。その際、ご本人様確認(氏名、住所、現在の契約内容等)をいたしますので、予めご準備をお願いいたします。

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部 (受付時間: 平日9時～17時)

TEL: 03-3222-1220 / E-mail: [gyoumu@clover-am.co.jp](mailto:gyoumu@clover-am.co.jp)



### 当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

# 本当に豊かになれる投資を目指して

クローバー・アセットマネジメント株式会社  
代表取締役社長 多根幹雄

はじめまして、新社長の多根幹雄です。かつて私は9年間スイスでグループ企業の資産運用を行ってきました。その時の最大の目標が『日本の皆様に世界のトップクラスの金融のプロ達の提案する投資機会を手軽に提供できないか。』というものでした。このたびクローバー・アセットマネジメントへの参画が認められ、この夢を実現できるチャンスを与えられたことを大変うれしく思っております。

さらに私がこの時期にクローバーに参画したかった理由があります。今までの『円高、デフレ』から『円安、インフレ』へ転換する時代になったということです。『円高、デフレ』の時代ならば銀行預金、つまり円の現金でお持ちいただいても投資としては正解でした。しかし、『円安、インフレ』になるとそうはいきません。リスクを取って投資する必要があります。しかし、いままで株式投資のご経験のある方ならともかく、銀行預金しか経験のない方にいきなり投資をといてもなかなか出来るものではありません。そんな皆様にも安心して、満足のいくリターンを安いコストで提供できる投資機会を提案したい。今回新たに『コドモ ファンド』を発売したのはそのような思いからでした。

またクローバーには『浪花おふくろ』『かいたく』『らくちん』という兄弟ファンドがあります。これらのファンドの投資にも世界的なネットワークの分析成果を反映させると同時に、お客様に選んでいただけるよう少しずつ特徴をはっきりとしたものにして進化させて行きたいと考えております。

これまでいろいろご心配をおかけいたしました。これからは時間とともにどんどん良くなるファンド達を育てていきたいと思っております。本当に面白くなりそうです。今まで以上のご支援、ご鞭撻いただけますようよろしくお願い致します。

平成25年8月1日

**【略歴】** 1959年生まれ。慶応義塾大学商学部卒、同大学院修士課程修了。1999年から2008年まで9年間、スイス・ジュネーブ市を拠点に株式会社三城ホールディングス（東証7455）のスイス子会社（当時）であるParis Miki International SAの執行責任者兼運用責任者としてグループ企業の資金の運用を行う。主にファンドを中心に世界各国のマネージャーを直接訪問。当時の人脈によりスイスをはじめ世界各分野の専門家のネットワークを構築。株式会社三城ホールディングス 取締役。公益財団法人奥出雲多根自然博物館 理事長。（2013年7月1日より現職。）

**clover**  
asset management

# いよいよ2013年最大の山場がやって来そうです

クローバー・アセットマネジメント株式会社

代表取締役社長 多根幹雄

昨年の暮れから大きく変化し始めた日本の株式市場。あまりにアップダウンが激しいのでこの先どうなるのかご心配の方もいらっしゃるかもしれません。でも心配ご無用です。いよいよここ数年で最大の買い場がやって来そうです。

この7月末からは予想通り調整期間を迎えており、一時的な円高、株安が進行しています。理由は、米国の景気が予想以上に良い為に「QE3（米国の量的金融緩和）が早期に縮小されるのではないか」と考える投資家が増えており、リスクのある資産から逃げているためと思われます。

しかし、これから数年にわたる大きな流れである円安、株高という長期トレンドは変わらないのではないかと思いますし、今まで日本株を買いあさっていたのは短期の投資家为中心で、本格的な長期の投資家は国内外ともまだまだ日本株を買っていないようです。いまだにヨーロッパの機関投資家もほとんど日本株を持っていないようで、彼らがたっぷり投資してしまっている新興国株や債券、そして金をはじめとするコモディティの損失が膨らんでいる可能性があること、さらに今年に入って日本株への問い合わせが増大し、日本株専門の担当者の不足が指摘されていること考えると、今後彼らも本格的に日本株に参入をしていくことが予想され、ここから数カ月がこの先の数年を見越した大相場の絶好の買い場となると考えています。

弊社としてもこの機会を活用すべく、各ファンドも15から20パーセントのキャッシュポジションでスタンバイしていますし、特にコードモファンドは約半分をキャッシュにして底値でしっかり買う準備をしています。

さあいよいよこれからが本格参戦です。今後の成果にご期待ください。

平成25年8月12日